

会 議 録

1 会議名

第3回 上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) ホール機能の規模について（公開）
- (2) 公民館機能の内容と規模について（公開）
- (3) 建設候補地の絞り込み方法について（公開）
- (4) 今後のスケジュールについて（公開）
- (5) その他（公開）

3 開催日時

平成24年2月17日（金）午前9時00分から

4 開催場所

上越市役所4階 401会議室

5 傍聴人の数

2人

6 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：赤羽孝之、樋口 秀、佐藤由起、田中昭平、甲田佳子、田中弘邦、秋山三枝子、清水 満、渡邊亮太、熊田僚己
- ・事務局：小林都市整備部長
都市整備課 奥田課長、阿部副課長、北島係長、松井主任、新保主任
高田地区公民館 大塚館長、佐藤係長

7 発言の内容

(1)開会

ただいまより第3回上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会を開催させていただきます。

開会にさきだちまして、都市整備部小林部長よりご挨拶をさせていただきます。

(2)都市整備部長挨拶（小林都市整備部長）

おはようございます。

本日は早朝より雪の降る中、またご多忙の中、会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

前回の会議で市内類似施設の視察の計画をさせていただきましたが、大雪のため一斉排雪等も実施する中で視察を行う状況ではないということで延期をさせていただきました。視察につきましては、雪の状況が落ち着いた3月に再度計画し改めてご案内をさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いをいたします。

本日が本検討委員会3回目となりますが、1回目2回目と議論をしていただきまして前回まででホールの機能、それと公民館との合築の基本的な部分についてご議論をさせていただきました。本日が3回目ということで委員の皆様から忌憚のないご意見のもとに更に議論を深めていただきたいと思いますと考えております。よろしくお願いをいたします。

（奥田課長）

ありがとうございました。

本日の会議につきましては、お手元の次第にそって進めさせていただきますのでよろしくをお願いいたします。

なお、本日の委員の出席状況につきましては、委員総数 10 名のところ現在 7 名の委員が出席されております。遅れて来られますが、今日予定としては全員の方が出席していただく予定でございますのでよろしくお願いいたします。

従いまして上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、会議は成立しておりますことをご報告いたします。それでは、赤羽委員長からご挨拶をお願いいたします。

(3) 委員長挨拶（赤羽委員長）

本日の会議は第 3 回目となるわけですが、2 回目の挨拶でも申しましたが、この施設は規模の点でも機能の点でも、上越市民の注目するところとなっております。それだけ市民が期待されているということでもあるわけですが、我々委員は委員の個人的な考え方、個人的な価値観、好み、主観的な思いに基づいて考えるのではなく、我々の背後にはたくさんの方の市民の目があることを自覚していただいて、客観的データに基づいて主観を廃してなるべく客観的、科学的にプロセスを踏んで段階的に規模、機能、建設場所の大事なことを考えていきたいと思っております。そのことが将来、市民に受け入れられ喜ばれる施設になっていく、そういうことにつながると思うところであります。その方向で活発な議論をお願いしたいと思います。本日もよろしくお願いいたします。

（奥田課長）

ありがとうございました。

それではここで資料の確認をさせていただきたいと思っております。資料 1-市内類似施設の稼働状況について 資料 2-ホール機能の規模について 資料 3-公民館機能の内容と規模について 資料 4-建設候補地について 資料 5-今後のスケジュールについて、そして受付でお渡ししました席次表、お席にご用意させていただきましたパワーポイントの資料でございます。不足等ございましたらお知らせ下さい。

これより議事に入らせていただきますが、上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会設置要綱第 6 条により、委員長が議長を務めることとなっておりますので、議事の進行は赤羽委員長をお願いいたします。委員長よろしくをお願いいたします。

(4) 議事（赤羽委員長）

それでは次第に従って議事を進めたいと思っております。

先ほど部長さんの挨拶にもありましたが、本来であれば市内の類似施設を委員のみなさんで見ただけから、この 3 回目の会議を開催するという段階を踏めばホールの大きさや公民館の現状のイメージも湧いて議論もしやすい状況になるかと思っていましたが、この大雪で屋根の一斉雪降ろしなどの状況もあり、事務局と相談した結果、雪の状況が少し落ち着いてからということになりました。第 2 回目は 1 月 25 日の開催でしたが、今日まで約 3 週間経過しております。皆様方からは 2 回目と同様積極的なご議論をお願いしたいと思います。

議事に入ります前に 2 回目までに決まったことを再確認したいと思います。

まず1点目は、ホール機能と公民館機能を合築するということが決まりました。2点目は、ホールの利用目的は、コンサートや音楽会の発表会、会議、講演会、社交ダンス等の軽運動、展示会や販売会、また限られたスペースでのプロレスやボクシングなどの興行系を想定することとし、バスケットやバレーボールなどの運動系は想定しないということが決まりました。3点目は、ホールの座席は収納式とし、平土間としての利用が可能な多目的ホールとするということです。皆さんその点はよろしいでしょうか。3つの点を踏まえていただきたいと思います。

今回も前回同様、会議の目的を共有しておくことが大事であると思いますので、そこで私のほうから提案ですが、まず前回の会議で決まったことを事務局よりおさらいのために説明をしていただき、その後議論を始めたいと思っています。

そこで本日の会議の目標は次の3点としたいと思います。1点目は、ホール機能についてです。具体的には多目的ホールの座席数と平土間の機能、大きさについて議論をお願いし、ある程度の意見集約をしたいと思います。2点目は、公民館機能の内容と規模についてです。具体的には公民館の現状と見比べたときに各部屋の内容や規模、それに加えて市民ニーズや施設としての部屋数や大きさについてご意見を伺いたいと思います。3点目は、建設場所の絞り込みの方法です。第1回目に事務局からの提案もありましたが候補地を2、3か所程度に絞り込んでいきたいということですが、今回はその絞り込みの仕方、方法について議論していただき、次回に具体的に絞り込みができればと考えております。従いまして今日は最終的な候補地を選定することではありません。絞り込み方法と、ある程度の絞り込みができればと考えております。7つの候補地が残っているわけですが、施設内容をどのようにイメージして候補地を絞り込んでいくのかということをございます。この絞り込み方法を数値化して比較検討するのか、グループに分けてそのうえで2つ3つの候補地に絞り込んでいくのか、また数値化できるのかという問題もありますが、そのへんを議論していただければと思います。

その他、飲食と保育の部分については建物の立地場所とも大いに関係があると思いますので建設候補地の議論のところでご意見を伺えればと思います。

以上ですが、皆さんよろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(赤羽委員長)

ありがとうございます。そういう方向でよろしくお願いします。

それではまず始めにホール施設の規模についてであります。前回の会議で決まったことや委員からの追加資料の要求の部分もありましたので、それについて事務局のほうから説明をお願いいたします。

(事務局 新保主任)

それでは、資料1-市内類似施設の稼働状況について説明させていただきます。よろしくをお願いいたします。スクリーンのほうで説明させていただきます。

まず前回の第2回の検討委員会の中で市内の大ホール以外の部屋の稼働状況について把握できるものは把握するとの意見もありましたので、事務局のほうで施設の調査を行いま

した。今回行った部屋は上越文化会館の中ホールとリージョンプラザ上越の練習室について稼働状況と目的と利用人数について調査を行いました。細かい資料の内容等はお配りしてある資料のほうに記入してあります。調査表の見方ですが施設名と施設の内容、施設の稼働率、利用人数別の利用回数と利用目的、そして利用状況について記載してあります。施設の写真も掲載してあります。調査した中の内容を見てみますと10人以下の少人数でのバンドやピアノの利用が多く小規模の練習室のニーズがあるということがわかりました。また文化会館上越のような170席規模のホールの利用は比較的少なく、充足しているのかなと思われました。また、中規模小規模の部屋の利用は音楽、ダンスの利用が多いということがわかりました。また大ホールやコンサートホール、インドアスタジアムの控室としての利用もされていることがわかりました。

次に資料2ページ目になりますが、2回目の検討委員会の中で座席は稼働式とし、平土間での利用とすることが確定されましたので、平土間の施設についても調査を行いました。調査した施設は上越観光物産センター大ホールとリージョンプラザ上越インドアスタジアムを調査しました。調査しました中身のほうを見てみますと、営業展示や販売のために利用する平土間の施設のニーズはグラフから見ると充足しているのではないかということがわかりました。また営業による展示や販売の利用は3~4日連続が多いことがわかりました。また大規模な展示会やイベントはインドアスタジアムを利用していることがわかりました。また施設管理者から少し聞いた話ですが、展示販売イベントの内容によっては、火器や配管等に対応した設備を必要とする場合もあるということもわかりました。部屋の稼働状況については以上になります。

次に、維持管理費について調査してほしいということがありましたので、そちらのほうを説明させていただきます。全体的な収支のことについて説明させていただきます。上越文化会館、リージョンプラザ、雁木通りプラザ、春日謙信交流館を調査いたしました。くびき希望館は野球場や体育館、プール等の施設も含んでいるため外しました。施設のほうの管理の状況ですが、上越文化会館とリージョンプラザ上越は、指定管理者制度をとっております。雁木通りプラザと春日謙信交流館には市の直営管理ということになっております。その中の調査した内容を見ますと、上越文化会館とリージョンプラザは黒字ではありますが、施設の使用料による収入は20~30%、収入の70~80%は市からの指定管理者委託料で賄われているということがわかりました。また雁木通りプラザ、春日謙信交流館は、赤字というような言い方は良いかどうかですが、赤字ということで、施設使用料による収入は20~40%ということがわかりました。次に年間維持管理費について追加で調査しました。光熱水費、保守管理費に焦点を絞りました。年間維持管理費についての光熱水費だけで見ますと1㎡当たり1600円~3900円位かかっていることがわかりました。また全体支出に占める割合は15~30%ということがわかりました。次に光熱水費と保守管理費について合わせたもので調査したところ、全体支出に占める割合は指定管理者制度をとっているところは20~40%、市の直営施設は保守管理のなかに総合管理業務という受付や清掃業務も含めていきますので支出に占める割合は90%ということがわかりました。

以上事務局のほうでこのような内容を調査させていただきました。今後の議論の参考にいただければと思います。以上になります。

(赤羽委員長)

只今の説明につきまして、ご意見ご質問ありましたらお願いいたします。いかがでしょ

うか。

私のほうからよろしいでしょうか。資料を見てもまして上越観光物産センターの利用状況のところ、プロレス興行のことですが、現状におきましてプロレス興行というのはどの程度の規模でどこで行われているのか知っておきたいのですが。この物産センターのほうで行っているわけですね。

(事務局 新保主任)

こちらのほうでプロレス興行が行われておりまして人数で言いますと 750 人規模で行われているということがわかりました。ホールの面積は 592 m²となっております。

(赤羽委員長)

他の施設ではされていないわけですね。

(事務局 新保主任)

他の施設、リージョンなどではやっていませんでした。

(赤羽委員長)

こういった興行系プロレスは上越でどういう単位で行われているかわからないですが、糸魚川、上越、柏崎の単位なのでしょうか。お客の来る範囲はどうでしょうか。

(熊田委員)

委員長のご質問に対して少しお手伝いしている部分がございますのでお答えさせていただきます。

興行に関しまして昨年度の実施実績は 2 団体ありました。昨年は 3 月に 1 団体、10 月に 1 団体実施させてもらっております。大変こちらの業界のほうもなかなか厳しい業界でございまして全国各地を巡業として歩ける団体さんは今 3 団体に限られております。上越地区にはジャイアント馬場さんの全日本プロレスリングとそこから独立されたプロレスファンという団体があります。リージョンプラザを利用しない理由として、セットバック等もございまして、セットバック、アリーナの椅子、二階の座席、フルハウスで 3000 人規模になりますので、3000 人規模を集める興行というのは大規模都市以外ではなかなか厳しいのが現状でございまして、まちづくりではありませんがプロレスのほうもコンパクトシティへ移り変わりつつあるというのが現状であります。厚生南会館、リージョンプラザのほうを利用させていただいてまして、そのあたりがだんだんなかなか厳しい状況になってまいりまして、南会館をお借りしてやっております、南会館がこう言うふうになくなりまして、そのあと代替え施設のほうを市からご提案いただきまして会長さんとかもいろいろお話させてもらって一時厚生北会館をお借りしていた時期もございました。立地条件や建物の老朽化などありまして、その後コンベンションさんともお話させてもらって物産センターをお借りしてやっている状況でございまして。収容人数に関してもおっしゃった通りの人数が実情でございまして。お客様の範囲ですが、市内外はもとより熱心なお客様もおられまして県内、県外、遠くは石川、富山からもお越しいただく現状でございまして。以上でございます。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。他にご意見ご質問ございませんか。

(秋山副委員長)

先回のところでホール別に詳しい数字が出たらということで今回提示していただきました。感想を含めてですが、文化会館の中ホールの170席のところは駅にも近く駐車場も広いけれども稼働率がそれほど無いなという印象を受けました。今回計画されているのが音楽、演劇、会議というイメージがある中で同じような立地条件、場所は春日山と高田とで違うかと思いますが、比較的文化的文化会館中ホールは使われていないなと感じました。逆にリージョンプラザの練習室Aの稼働率がここまで高いというのは意外でした。

(佐藤委員)

私もそれは実感として前からあったのですが、文化会館の中ホールというのは響きがあり無いですね。その点が人数に関係してくるのかなと思います。

(秋山副委員長)

音響なのか、利用料もあるのかなと思ったので。

(佐藤委員)

それもあるかもしれません。

(秋山副委員長)

その辺が、気になったところです。

文化会館中ホールは、8月は休日稼働率がゼロに近いということはどういうことなのかと思います。以上感想です。

(赤羽委員長)

他にありますでしょうか。

(各委員)

ありません。

(赤羽委員長)

それでは次に進みたいと思います。

事務局から前回のおさらいも兼ねて説明していただきましたが、これからはその規模や建設場所について議論していただきたいと思います。ホール機能の規模については事務局から説明していただきましたが、多目的ホールの座席数と平土間にしたときのその広さ、これを決定していかなければならないと思います。多目的ホール座席数については前回の委員会では500席から700、800席でした。

(事務局 松井主任)

委員長すみません。おさらいの資料として少しご用意させていただきましたので簡単に説明させていただきたいと思います。

(赤羽委員長)

お願いします。

(事務局 松井主任)

前回までのおさらいということで簡単に説明させていただきます。冒頭、委員長のご挨拶の中でもありましたが、今回の施設はホール機能、公民館機能が合わさりまして厚生産業会館というような形になっております。前回はこの施設を我々は合築という言い方をして確認をとったかと思っております。利用の目的ですが想定するものとして今ほどの説明と重複しますが、音楽、演劇系、会議、講演会、展示会や販売会等、社交ダンス等の軽運動系。逆に想定しないものとしてバレーボールやバスケットボールの運動系、剣道や柔道などの武道ということでございました。そして今ほどもテーマにあがりましたが、プロレスなどの興行系については、限られたスペースの中で、これを目的とする施設ではないというところの確認をして終わったかと思っております。

座席につきましては可動式としまして収納できる多目的ホールということでイメージとしましてはこのような形のコンサート系、あるいは会議系、こういったような形の多目的なステージを利用したファッションショーなりの使い方、あるいは平土間としてのパーティー形式といったものを利用ができる多目的ホールというイメージだったかと思えます。

利用率のお話が先ほども出ておりましたが、文化会館の利用率でございますが、平成22年度の実績では、100%を超える稼働率が非常にあるということで中でも休日の稼働率があり、100%の月は3回もあるといった状況です。ということは使いたくても使えない時があるのではないかという想定ができます。もう一方でリージョンプラザ上越のコンサートホールの状況も簡単に説明いたします。こちらのほうにつきましても休日の稼働率が高いということと100%の月が3回もあるということで、使いたくても使えない時があるという想定ができます。利用の目的ですが文化会館の大ホールにつきましては100人規模の利用がありますが、そのほとんどが会場準備です。利用の人数に関しましては500人以上の利用が非常に高く、利用の目的は音楽と講演会系といった状況です。一方リージョンプラザ上越につきましては500人クラスのホールですが、300人以上の利用が多く利用目的は音楽系と講演会といったところでした。

施設の状況として簡単にまとめたものですが、横軸には席数、下には市内の類似施設を表しております。囲まれた部分ですが、規模は小さいですが稼働率がある範囲、この青い部分が今まで市のほうでお示ししてきた500席程度の範囲。この緑の部分が現在、市の中には無い施設の範囲。今回赤く囲ませていただいた部分が、市民の皆さん方のニーズが非常に高い範囲。ピンクは上越文化会館と重複が考えられる範囲というようなイメージになるかと思えます。

まとめとしまして、500人以上の利用が非常に多いということ、音楽系、講演会の利用が大半であるということ。休日の稼働率が非常に高いという状況で、特に7、11月に関しては文化会館、リージョンプラザに対しては非常に高い状況になっています。使いたくても使えない時が発生しているという状況です。さらに1000人規模の文化会館との競合がこの規模を作ることによって予想がされるということが想定されます。それとリージョン

ラザ上越とくびき希望館の 500 人クラスのところとはデータからは競合していないのではないかとということが想定されるというところでございます。

それで最終的に皆様方と意見を共にしたのが、データからみますと 500 席以上のところが妥当なのではないかとということでございます。それから市民のニーズとしましては、700～800 のご希望が非常に高いといった状況でございました。

今回平土間という部分もございましたので、500 席程度の多目的ホールの平土間をイメージしております。まずステージですが、ここに打ち出しをさせていただいてあるのは全国の施設から想定される規模のもので、ステージにつきましては、例えばオーケストラを利用したときにどの位の人数が必要なのかというものを参考にお示しをさせていただいております。概ね 200 m²程度あればできるのではないかとと言われております。平土間の面積はどの位になるかといいますと、この図上でいきますと縦×横で約 430 m²位でございます。市民の方のニーズの中では社交ダンス等のご利用も考えたいというお話もございましたので少しヒアリングをした結果をご参考にお示しをします。社交ダンスでワンペア当たり約 25 m²程度が使われているのがごく一般的だというふうに使われているそうです。この面積で競技をする組数ですが、その大会によっても違いますが 10～12 組程度ということでその面積が概ね 400 m²位あればダンスの皆さんが競技をすることは可能なのかなということが予想されます。ただ観客や審査員の方が、なかなかこのスペースだと入りづらいのかなということが想定されます。

それから施設の分棟型の例としてお示しをさせていただきます。500 席のものと 800 席のものをお示しさせていただきます。こういうものを私どもは分棟型と言っております。

一体型の例でございます。500 席、800 席といったものでございます。ご参考までにお示しをさせていただきました。

今まで 500 席といったものに対しまして、前回は 700 席から 800 席といったお話がございましたので、マックスの 800 席の例をご参考にお示しをさせていただきました。以上でございます。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。只今ホール施設の規模、平土間の大きさ、そしてそれに関連する説明をしていただきました。

只今の説明につきましてご意見ご質問等ありましたらお願いいたします。

(秋山副委員長)

ダンスホールの面積について聞き漏らしてしまいましたので教えてください。

(事務局 松井主任)

社交ダンスの会場としてご利用される場合ということでヒアリングをしております。ワンペア当たりで 25 m²以上ないとだめなのかなと伺っております。競技会等になりますワンフロアに 10 組から 12 組程度のみなさんが一度に演技をされるということで、単純に計算しますと 12 組×25 m²で 400 m²程度というものが競技をする面積で必要となってくるのではないかと予想がされております。

(秋山副委員長)

ありがとうございます。

観光物産センターがダンスホールとしては 592 m²程度あり稼働率も低く代替施設にはならないのかな、それは何なのか今話を聞いて思いました。

(事務局 松井主任)

物産センターの大ホールですが、展示即売会などに利用されるような平土間形式になっておりまして、下の板が一枚一枚当てはめてあって若干デコボコしていることが原因ではないのかのということが予想されます。

(赤羽委員長)

他にご意見ご質問ありますでしょうか。只今の説明は資料の2であります。

私、昨日この資料を見ていまして、一枚目の図が大事だと思いますが、上越文化会館とリージョンプラザ上越のこの休日の稼働率では、7月と11月が100%で使いたくても使えないグループがあるということで抽選状態になっていることをございます。それでこの文化会館が上でリージョンプラザが下でこの右側のほうですが、リージョンプラザ上越のコンサートホール、横軸が参加人数ですね、これが500人に向かうにしたがって指数曲線的に上がっているんですね。ということは、これはデータからみればもっと大きな席数の施設をニーズは求めていることを意味しているのでしょうか。どうでしょう、このグラフは。もっと大きな人数を必要としているということでしょうか。

(事務局 阿部副課長)

お答えします。なかなか細かいところまでは調査をしていないのですが、逆にリージョンで500人クラスの使い方が多い。逆に600、700席を作った場合、市民ニーズとして多いのではないかと想定はしていますが、逆に文化会館がこのような利用のされ方をしておりましてこのなかで逆に500席から1000席位でそれほど多くないですね。データだけで考えると逆に文化会館の500人以下の人達が別のところを利用されれば、700から800の人たちは文化会館を使えるのではないかとそういう想定もされるということです。ですから逆に文化会館で1500人の規模なのに、例えば300で使っている人たちもいる、400で使っている人たちもいる。それは、何らかの理由があってそこで使っている可能性がある。リージョンが使えないから文化会館1500席のところでは300席とか400席で使っているという可能性もあるということです。

(佐藤委員)

私はその可能性が高いと思います。やっぱりリージョンの大きさのホールの施設が使いやすいのがあって、そこに人気が集まるのだと思います。そこを使えなかった人が文化会館なり他のところを考えるというケースがあるのではないかと思います。

(赤羽委員長)

結局施設のイメージといいますか、リージョンプラザと文化会館のイメージの違い、あるいは地域的な位置の違いなども左右してリージョンに非常に人気があるということでしょうかね。

(事務局 阿部副課長)

細かい分析をしてないのでわかりませんが、位置的なところに関してはリージョンと文化会館ですとそんなに差がないのかなと思います。くびき希望館くらい行ってしまうと位置的な関係があると思いますし、人気の差も出てくるのかなと思う気もします。逆に利用料金等で選択をされる方が多いのではないかと聞いております。当然文化会館のほうが高いですから300席から500席で何かをするといった場合、まずそれが入る建物でそれなりの質で料金が安いところを選択するというそういう行動をまずしている。それが満杯であればそれより大きくて、利用料金が高くても仕方がないかということで文化会館を選択する。そういう可能性が高いのではないかと考えています。

(赤羽委員長)

他にご意見ご質問ありますでしょうか。

(渡邊委員)

先ほどの資料1のところ、採算ベースとかいろいろ考えていくとやっぱり500席でニーズが多くて、市民のニーズが700席から800席であればできるだけぎりぎりの700席とかのほうが採算もとれて利用する方も料金が安く借りられるのかなと思えば、500席よりちょっと多くて800席より少なくしたほうがいいのかと思います。

(赤羽委員長)

そういった席数の具体的な議論については今すぐ入っていくところですが、とりあえず事務局の説明につきまして何かあればお願いします。よろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(赤羽委員長)

それではホール機能の規模につきまして多目的ホールの座席数、そして平土間にした時のその広さ。この多目的ホールの座席数につきましては前回の委員会では500席から700、800席程度ということになったわけです。議論の順序として、まず始めに全体の座席数を優先させて議論を進めたいと思います。まず全体の座席数につきましては、ただいま渡邊委員から意見もありましたが500席より多く800席より少なく700席程度ではないのかという意見がありましたが、この座席数につきましてご意見がありましたらお願いします。

(秋山副委員長)

座席数についてですが、以前社会教育委員公民館運営審議会委員のところ、ご意見いただいたときに高田地区の委員はおらないのですが希望としては700位の席数が多かったです。個人的な意見としては、私は高田地域で活動をしていることが多いですが、300席から500席の座席数を確保するのがほとんどできない状態なので、そこで考えたのはこの建物が対象エリアを上越市全域から集めた催しものとして考えるのか、主に高田地区の方々を対象として考えるのかで大きく違ってくるなというのがひとつ感じました。候補地にあがっているところで700席規模のホールのものでつくとすると、かなりそこで場所が限

定されてしまうなという気がいたしました。300 席から 500 席の中だと 7 つの候補地で検討の余地はあるかと思いますが大規模なホールになると 1 ないし 2 か所になってしまうのが気になっております。

(赤羽委員長)

結論的には、座席数は 700 席程度。

(秋山副委員長)

個人の意見としては 500 席以下、500 席位。秋山の意見としては 500 席位です。

(赤羽委員長)

この施設がお客の来る範囲が高田地区程度の範囲なのか、あるいは上越全域といった範囲なのか、どちらなのかといったところですね。それで 500 席というのは、高田地区を考えているのでしょうか。

(秋山副委員長)

高田地区中心に。あと候補地で。

(事務局 奥田課長)

委員長よろしいですか。

(赤羽委員長)

はいどうぞ。

(事務局 奥田課長)

この施設の利用される対象の範囲は上越市全体の皆さまからお使いいただきたい、特にホールについては上越市全体の皆さんからお使いいただきたいと考えています。

(赤羽委員長)

要するに、公民館につきましてはもっと狭くなって、ホール機能、つまりコンサート、講演会、シンポジウム等についてはもっと広域化して、上越地方という糸魚川から柿崎、妙高高原くらいの顧客の吸引範囲であるということですね。

(秋山副委員長)

当然利用者は広域なのは重々わかっていますが主にどこかということで。というのも既存の施設の利用も落ちるとということと、あるものを利用していく方向も有りかなと思ひまして、先ほどの観光物産センターの大ホールの床がダンスホールに張り替えが可能であつて経費的にはどんなものかといったら多分そこももっと利用されるのではないかとか、ただこの建物を本当に広いところの人達が集まって利用しやすくしていくと、限りなくコストも大きくなっていくのではないかなというのが懸念されての私の意見です。高田地区中心ということではなく、当然ホール機能は広く広域の人達が集まる場所と思っています。

(赤羽委員長)

大事なところですが。

(秋山副委員長)

あと希望ですが、委員会で意見交換をさせていただきたいのですが。

事務局さんに聞くだけではなく、このメンバーでどう思っているのかのフリーな意見交換がもう少しあればいいなあと思います。

(樋口委員)

前は欠席して申し訳ありませんでした。長岡技大の樋口でございます。

ひとつ委員に皆さまに教えていただきたい、お聞きかせいただきたいのですが、市民ニーズが高い範囲で700から800席というお話がたくさんありますが、700から800席の利用というのが今皆さまが盛んに議論されている利用率という意味でいきますと、常時こういうニーズがあるのかどうかちょっと疑問になりました。当初設定された500席というのは、かなりニーズがありそうで、そこがなんかこう皆さんかなり利用率が高くて、それを分散させると、あるところの利用率が下がる可能性があるのですが、700から800席という施設を作ったときに今まで例えば300から400席位の利用の方が500席位のところを使っていたのが、700から800席に入ると半分位になっちゃうんですね。利用料金が同じなのかどうかわかりませんが主催者からすると会場がいっぱいになると嬉しい感じがしますが、先ほど上越文化会館大ホール1500席がなかなか使いづらい、真ん中で分けたらいいねという議論が前回の議事録から読ませていただいたのですが、700から800席という市民ニーズが高いという部分がちょっと私にはどの位の利用率なのか、どんな方が使われるのか、年間を通しての市民の皆さんがどのように想定されているのかちょっと教えていただきたいと思います。

(赤羽委員長)

前回の資料にありましたが、各種団体の要望で希望の聞き取り調査で700から800席程度が欲しいという意見がありましたね。それと先ほどのプロレスの興行で参加者が700人程度ですかね。

(熊田委員)

実数としては600人程度ですね。

(佐藤委員)

しっかりしたデータでは分からないのですが、700、800の人数で使われるということはあると思うのです。でもその回数が多いかどうかはちょっと疑問です。

(田中弘邦委員)

とかくまあ少し多い数字を希望だというのは一般論としてはあると思いますが、利用度を考えてみますと、500席というのは非常に適切な数かなと私は思っていますね。おそらく600、700席はそれだけのものを使う要素は極めて高くはなく低い。またそれ以上多くなったらまた別のほうを使うという手がありますからね。だから今ここで考えられるのは、

500 席という数字は極めて妥当な数字かなと考えています。今まで利用している状態を見ていると 500 席とはかなり空きますから実際。そんな考えですが。

(赤羽委員長)

他にありますか。

(清水委員)

前回の資料にありましたが、リージョンのコンサートホールで稼働率がピークになるのが 3 月と 6 月、11 月で平均すると 50%にいかないです。これが一番ピークの要するにマックスの人数で 500 人規模ですが施設の稼働率を考えると 700 人 800 人ほしいという各団体からの希望はわかりますが、会頭がおっしゃられたように 500 人規模のものがあれば、通常は予約が殺到する 11 月はなかなか予約が取れないといった状況になるかもしれないですが、逆にいったら競合しないのかなと思います。

(赤羽委員長)

500 人規模を軸に考えたほうが良いということですね。

(清水委員)

そうですね。

(赤羽委員長)

各種団体の要望の 700、800 席というのがひとつの基準にもなると思いますが、各種団体の希望が多少多めにいっている可能性がありますね。実際にはそこまで集まっているのかということですね。プロレスの場合にも 750 人ということですが、実際には 600 人位。そういったことは現実多いのかなと思います。

ここで座席数について可動型の座席数プラスパイプ椅子みたいなものを平土間に並べるみたいな形で、決まった座席数プラスアルファの形で座席数にもちゃんとした座席と追加した座席、そのように考えていけばもっと柔軟になると思うのです。そのように考えていったほうがいいのかどうなのかですね。かたく何席までということではなく、プラスアルファの形ではどうでしょうか。

(秋山副委員長)

プラスアルファでそこが 100 席とか 150 席に増やせるというのは多分みんなの希望に沿う形なのかなという気がします。

(赤羽委員長)

座席数もある程度柔軟に捉えていく必要があると思います。ですから 500 席プラス 100 席とか、500 席プラス 150 席とか。大きな大会が開かれるときはパイプ椅子を並べてやれますからね。

(田中弘邦委員)

固定的にするのではないから、それはいいと思いますよ。それだけの幅がありますから

ね。

(赤羽委員長)

固定椅子をどのように考えたらいいのかなということです。

(熊田委員)

今、委員長がご提案いただいたのが非常に想定としてはよろしいかと思えます。私の考えとしては可動式のセットバックの椅子を 500 席固定で決めて、その補足としてパイプ椅子を並べて 500 席プラスアルファで幅をもたせるという設定が一番いいかと思えます。そうするとフロア面積をもう少し広め、今こちらの多目的ホール 500 席のイメージ図のフロア面積だと 400 m²程度となっていますが、これがセットバックの可動の 500 席だとしての 400 席の想定だと思われますので、フロア面積をもうちょっと広げてホールとしての余裕をもたせたほうがまた追加もできるといった対応がよろしいのではないかと思えます。

(赤羽委員長)

はいそうですね。平土間についてはこのあとまたすぐに議論していただきますが、全体の数につきましては柔軟に対応できる形がいいのではないかと思えますが、先ほど渡邊委員から 700 席という意見がありました。500 席にプラスアルファで 700 席のような大会に対応できるのではないかと考えられるのですがいかがでしょうか。

(熊田委員)

良いと思います。広さも広くして臨時の席を増やせば人数に応えられるならそれでよろしいと思います。

(赤羽委員長)

では 500 席程度を軸にして考え、補助的なパイプ椅子で大きな大会で並べてマックスとして 600、700 席まで可能な方向で考えていくということではよろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(赤羽委員長)

それでは熊田委員の意見にもありましたようにパイプ椅子がどのくらい並べられるかというのも関係するのですが、平土間の大きさにつきましてご意見を伺いたいと思えます。

第 2 回目の会議資料にもありましたが、各種団体からの要望ニーズ或いは平面モデル図等を参考にしてホールの平土間の広さ、位置について意見を伺いたいと思えます。先ほどの事務局の説明にもありましたが 430 m²の 20m×20m プラス 30 m²ということですが、ダンスなどの大会ではこの程度で十分だったと思えますがいかがでしょうか。

(甲田委員)

500 席の可動式の椅子ということを作る場合このスペースで十分でしょうか。

(事務局 松井主任)

ご質問ですが、今スクリーンに出ていますが 500 席の可動式の席を作ることはこの中では可能だと思います。

(甲田委員)

その場合、このスペースが 500 席の可動式がいっぱいになってしまうのか先ほど言ったように補助に椅子を置くスペースが余るのかどうかをお伺いしたい。

(事務局 松井主任)

こちら今の図面では余裕のパイプ椅子を並べるスペースは、ほとんど無いかと思えます。

(甲田委員)

ありがとうございました。

(赤羽委員長)

可動式の階段の椅子を引き出した場合、平土間は全部なくなってしまうのですか。平土間は残るのではないですか。そうすると座席数を 600 とか増やせないのではないですか。

(事務局 松井主任)

こちらのお示ししている図面では、移動式の可動式の椅子だけでおそらくフロアーが満杯になるだろうと思えます。従ってそれ以上にパイプ椅子なりを置きたいということになりますと現在のこの大きさでは賄いきれないかと予想がされます。

(赤羽委員長)

ではこの平土間の広さにつきましては、可動椅子を収納すればその平土間は大きくなるわけですね。可動椅子を出すと平土間は狭くなる。平土間は可動椅子を出し切ったあとの広さということでしょうか。

(事務局 松井主任)

今私どもでお話しをしてきたものは、階段状の椅子が全部壁の中に収納されて出てくる全体の平土間の部分です。従って、今委員長がお話しをしていた階段状があってステージと階段状の間にある平土間の部分というものが、今回この図面の中ではイメージはしていませんが、皆様方が今お話をしていただいているのは、その余分のパイプ椅子も含めて階段状がしまった段階でどのくらいの広さになるのかを話していただければいいのかなと思っております。

(赤羽委員長)

可動椅子を出し切ったあとその全面にひろがる平土間の大きさですね。可動椅子を引き上げると平土間は大きくなるわけです。

(樋口委員)

私、前回欠席してしまいましたが、市内類似施設の視察結果ということで前回の資料で

福井県民ホールがあったかと思います。この資料を見ますとこの客席面積が 400 m²弱で座席数が最大で 570 席と書かれております。今我々議論しているのが 400 m²ですのでほぼ同じ位です。これで最大で 570 席、ロールバックで出てくるようなイメージですが、この 570 席がどんな感じなのか前回の資料や皆さんの議論がどうかっていうのがわかりませんが、ちょっと確認させていただくと参考になるのではないのでしょうか。

(事務局 阿部副課長)

席ですが、映画館をイメージしていただくとわかりやすいような気がしますが、一番前の席というのは階段状ではないですね。平らなところに椅子があり、そこから少し下がって階段状の椅子があるというイメージです。ですから、福井のものも基本的には階段状の席と平らな席と二つあるというイメージです。今、一般的には壁に自動的に収納されるものが、階段状の席が収納されて、一番前の席が並べるような形で使われているということです。ですからこの 500 席のイメージは、この辺は平らな席で、平らなフロアーに椅子を並べて、このあたりから階段状になってくるというそんなイメージです。

(樋口委員)

ありがとうございました。

(赤羽委員長)

ダンスやプロレス等は、可動式の椅子を引いてやるのか、出してやるのかどちらなのでしょう。

(熊田委員)

引いてやります。

可動式は引っ込めて、アリーナですと何もない平面にセットをおいて周りにパイプ椅子を並べてやるといった形になると思います。

セットバックやロールバック式といった稼働椅子は一切使いません。

(赤羽委員長)

ダンス大会もそうでしょうか。

(熊田委員)

ダンスもそうだと思います。舞台の上で演舞するわけではなく引っ込めたところでやれるとうことではないのでしょうか。

(赤羽委員長)

講演会やシンポジウムは、可動式の階段椅子が出てきて、その前にスペースがあってステージがあるということだと一番前の平土間のスペースがあれば、ちょっと距離感がうまれますね。パネリストとかの意見を聞く場合、前に空間があるわけですからマイナスになる可能性がありますね。その辺はどうなるでしょうね。

(清水委員)

相反する部分があると思います。要は舞台の場合は逆にそこにスペースがないとオーケストラをおけないということになると思いますし、会議で使用する場合も平土間のところにパイプ椅子を置いてそのスペースを埋めるみたいな形になると思います。単純にいろいろ計算してみました。500席で400㎡となると800席では何㎡になるのでしょうか。

熊田さんにお聞きしたいのですが、500席があって補助で何席位用意しなければならないのでしょうか。先ほどプロレスの興行のなかで750の数字があって、500席プラス250席位必要になってくるのでしょうか。

(熊田委員)

500席というのは先ほど確認させていただきましたが、セットバックの可動椅子が500席と私は認識しておりますので、物産センターのホールの㎡数が590㎡ですが550㎡もあればそのパイプ椅子も650席並べるのも可能でございますので。われわれのような興行やダンスに関しては、フローアだけを占有させて利用するパターンですと、整理しますと可動椅子は利用せず付帯するパイプ椅子をお借りして不足分は現地業者から貸与させてもらって対応する感じでございます。

私どもやっております興行や、ダンスの方からはお話も伺っておりますが、可動椅子は使わず最大のスペース配分でございます。

(事務局 松井主任)

今ほど清水委員さんからご質問がございましたが、こちら800席の図を参考にお話しをしますが、平土間の部分、こちらになります。30m×22mということで660㎡を確保できる図になっております。ただこちらにつきましては、あくまでも参考といった形でございます。

(清水委員)

ありがとうございます。

800席で660㎡必要となると平土間の部分の位置にもよると思いますが。もうひとつ聞きたかったことですが、プロレスをやる時に、ステージが前のほうにあって観客がずっと後ろのほうにある興行みたいなものは可能なのでしょうか。

(熊田委員)

もしお借りして、させてもらうという想定で考えますと、私もぱっと見ですが舞台は一切使いません。舞台は、暗幕を下ろして全く閉鎖しまして、あくまでもホールの客席をお借りして座席を設置させていただくということになるかと思っております。客席のセンターにリングを設置いたしまして長方形になっておりますので舞台のほうへ向けてせいぜい6、7列並べられると思いますが、北と南でしますと6列と6列、東と西は幅が短いので3列と3列位ではないだろうかと思っております。一列あたりは22客位ではないかなと思っております。

(赤羽委員長)

議論がよく私にもわからなくなったりしてはいますが、可動椅子を出したり引っ込めたりする、その空間ですね。

そこは、平土間が連続したものとして考えた方がいいのか、あるいは椅子がレールなどで

動くわけですから平土間としてはあまり使えない空間なのかどうなのかということもありますよね。

(事務局 阿部副課長)

若干ご説明します。

この図面上でいうところがステージで、これが全く平らな空間になるということです。いわば普通でいうと体育館みたいな形になっています。

ここの後ろのこの辺に座席が収納されていてボタンを押すと、ぐーっと出てくるというような仕組みですから、平らな平土間としての空間としてどれが使えるかということ、この空間が使える。一般的にここで興行すると考えればこの辺にリングがあってその周辺にパイプ椅子があるという感じですよ。

ですから、このステージは段差があって一切使わない。ここに段差が存在するから使えないという形ですね多分。ですから逆に前回事例で紹介したところで、逆にここのステージが動いて平らになるということですね。それで平らになればこれ全体で使えるから真ん中にリングを置いてこれ全体でパイプ椅子というような使い方もできるということです。

(赤羽委員長)

ステージが動くという方式もあるということですよ。

問題は、可動椅子を出し切ったあとのスペースなのか、可動椅子を収納したあとの平土間の大きさなのか。

(事務局 阿部副課長)

みなさんに議論していただきたいのは、可動椅子が収納した時のこの平らな空間がどの位必要かということです。ステージを除いて平らな空間がどの位必要なのかということです。その辺の議論をしていただきたいと思います。

ですから、最初、使い方として平土間として会議に使うとか、例えば階段式の席というのは前にテーブルがないわけですね。例えば説明会やシンポジウムの場合は、椅子があって前にテーブルを置いてという作業が必要になってきます。そうなってくるとこの平らな空間でテーブルがあって椅子があるという席が広がる、そういう使い方もあるのではないかと考えています。

(赤羽委員長)

ただ先ほどの議論の中にもありましたが、500席とプラスアルファでパイプ椅子を置くスペースを考えれば、階段の可動椅子を出し切った時にスペースが必要になりますね。

(事務局 阿部副課長)

そうですね。プラスアルファという考え方をすると可動椅子がでてきて、この辺で止まって、前に平らな空間がある。ここに椅子を並べるということです。

(甲田委員)

個人的な意見ですが、平土間として利用する場合の興行等は、基本パイプ椅子を使うことになると思いますが、舞台を鑑賞する目的、要するに演劇やダンスなど舞台ものを見に

来る方というのは、やはりゆっくり落ち着いてみたいという感覚があるので、可動椅子があつて前のほうに全部パイプ椅子というのは、ゆっくり見られる状況にはならないかなと考えると、可動椅子を使うタイプのそういったものに前のほうに補足的にパイプ椅子という造りはちょっとどんなものかなというのが正直、そういったものを観賞するのに1~2時間の中で、こういった客席に座って観る場合はちょっと。後ろの席に足りないのでパイプ椅子というのはわかりますが、基本やっぱり好きな方は皆さん前のほうでゆっくり観たいと思う方が多いのでそういう作りはちょっとどうかと思いました。

(赤羽委員長)

そういう面もありますね。ですからこの問題は複雑ですね。

平土間の面積について考えるのだけれど、我々は情報を持っていないのですね。平土間の大きさについても可動した後の平土間なのか、収納した後の平土間なのか、プラスチックを考えられるメリットもあるのだけれども、今ほどのご意見のようにコンサートとか演劇とかそういったもの場合には一番前面にパイプ椅子があつて、そこで出入りの音がしたりして逆にマイナス面も出てくるということもあります。この問題はまだ結論は出そうにないのでもう少し問題を整理して議論をしたいと思うのですがいかがでしょうか。

(秋山副委員長)

希望ですけれども類似施設ということで規模は違うのですが、妙高市のふれあい会館のふれあいホールは、ステージも50cmくらいの上がり下がりしてフラットになる。あと椅子が可動で出てきて、前にはパイプ椅子が加えられている状態ですし、希望館もステージは固定ですけれども椅子が出てきて、また前に押せるということですので、近場にそういうところがあるので少しそういうのを見ながらイメージを膨らませたらどうかなと思います。

(赤羽委員長)

それではそういった事情で次の議事に進みたいと思います。

次の議題は公民館機能の内容と規模についてであります。ここで休憩を取りたいと思います。

(赤羽委員長)

時間になりましたので、議事に入らせていただきます。

公民館機能と規模につきまして、事務局のほうから説明をお願いいたします。

(公民館 大塚館長)

公民館です。よろしく願いいたします。

公民館機能の内容と規模について、スクリーンのほうで説明させていただきますのでご覧ください。

公民館活動から公民館に必要な機能、その他の機能ということで順次説明させていただきます。

はじめに、公民館活動とは、ということですが、すでに皆様にご案内の通りでございます。地域の課題や市民のニーズに則した学習機会を提供し心豊かで活力に満ち

た人づくり地域づくりの推進に努めております。基本方針として掲げてございます。

次に具体的な運営方針ですが、ここに表示しましたように、1 番目に「学び」でございまして市民の生涯にわたる学びを支援するという方針です。2 番目の方針としましては「つどい」の場としての環境づくりも公民館の大切な機能となっております。そしてもうひとつが、「むすび」ということでございまして、人と人とのつながりの輪。公民館においていただいて、それぞれ交流を深めていただきたいということ、それも公民館としての大切な機能、方針ということでございます。

次のものは、その「学ぶ」、「集う」、「結ぶ」をリンクさせた中で公民館の役割、機能ということで、このような 3 つの大きな課題、テーマを公民館として解決して、役割を果たしているということでございます。

次に、合併後の上越市の公民館の現状ということで、ここに書いてございます。施設の数を書いたものでございます。現在 15 地区館、63 分館が上越市の公民館の施設ということになってございます。地区館は、高田、直江津の地区館に、13 区にそれぞれ 1 個ずつございますので、合わせて 15 地区館になっております。分館につきましては、ここに書いてございますように、有る地区と無い地区、それぞれの地域性で分館が有るところと無いところになっております。

次に高田地区館、今回ホールと合築で建設としていただいたわけですが、高田地区館の位置付けでございまして、高田地区館は高田地区館であると同時に上越市立公民館として位置付けられてございまして、二枚看板と申しますか、館はひとつですが、ふたつの名前を持ってございます。それで細かい話になりますが、現在の職員の体制は、私以下 4 人体制で業務を遂行しております。なお、公民館は高田と直江津に別れてございまして直江津地区館はご存じのようにカルチャーセンターになってございまして、二枚看板になってございます。高田と直江津に別れてございます。そして高田地区の中心的な生涯学習施設として年間約 4 万人の市民の皆様から利用いただいております。なお 4 万人は前回お話ししましたが、高田地区公民館と女性サポートセンターが一体となった中で生涯学習施設が位置付けておりますので合わせて 4 万人とご理解いただきたいと思います。

次にこれも前回お話させていただきましたが、高田地区公民館の課題として大変古い建物で、耐震が必要である、エレベーターが無い、旧中学校の校舎に必要なオープンなスペース等無い、ということでございますし、駐車場も狭く基本的なことでございますが大変古いので老朽化が進んでいるということでございます。

次に高田地区公民館、今後の方向性でございまして、厚生産業会館と合築で建設をしていただくということでございます。それにより必要な機能と部屋数を考えていただければなということでございます。現在の地区館を廃止し、その機能を厚生産業会館へするというところでございますが、基本的には地区公民館とサポートセンター二つの施設が公民館機能を推進する館でございますので、ふたつの施設の原型を踏まえた中で位置づけをしていきたいと考えてございます。

次に書いてございますが、平成 23 年度 6 月でございまして一番利用率が高かった、利用者が多かった月でございます。この月をピックアップさせていただきましたが、大きなジャンル別に別れたものでございます。音楽系、踊り、軽運動、創作、料理、会議等々でございまして、音楽系は 27、踊りについては 11 の団体さんから利用いただいております、これらを合わせますと全部で 111 団体の方から 6 月にご利用をいただいたという形でお示ししてございますのでよろしくお願いいたします。

次に必要な機能と部屋数で考えてございますが、私どもとしましては、今現在ご利用いただいている方が、今まで通りご利用いただけるという形が、基本的に必要ではないかと考えてございます。ですから現在の部屋数をベースに利用団体の方の利用率などを勘案しながら計画を進めていきたいということでございます。

次に今ほど申し上げましたように、一つの例でございますが、現在軽運動室のほうは、軽運動や合唱、コーラスの方にご利用いただいているわけですが、例えば予約が重なりますと、このうちの一つの方はこの部屋をお使いいただき、他の方は別の部屋に移動いただいているわけでございます。現在は軽運動も踊りも合唱も同じ部屋をお使いいただいているわけですが、厚生産業会館におきましては、合唱したり演奏したり、その団体にふさわしい部屋が必要だと考えてございます。

もうひとつ、先ほど申し上げましたように、公民館とサポートセンターを現在ご利用いただいている方に利用を妨げないということで考えてはございますが、やはり高田地区にはいろいろな集会施設が現存するものもございまして、現在建設中のものもございまして、やはりそちらの利用と厚生産業会館の新しくつくる施設についても調整を図る必要があると考えてございます。

なお、他の高田地区の類似施設の具体的な状況内容を調査させていただき、次回以降に競合するものがあるのかどうかをお話しをさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

最後になりますが、現公民館として厚生産業会館にお願いしたいことは、部屋数としては15、面積は935㎡でございます。また女性サポートセンターにはロビーがあり、託児室は地区公民館にあり、事務室、物置がある現在の施設でございますが、厚生産業会館に想定しているものは、部屋数としては一部屋少なくしていいのではないかと考えております。ただし面積的には少し大きくなります。そしてロビーを含めた談話スペースが必要になるのではないかと考えておりますし、当然託児室、事務室、物置としての資料室もこの程度必要ではないかと考えております。

以上簡単ではございますが、スクリーンにて説明させていただきました。その他には事前に配布した資料をご覧いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

(赤羽委員長)

只今の説明につきまして、ご意見ご質問等ありましたらお願いいたします。

(清水委員)

今回の施設が合築という方向性があったと思いますが、公民館機能ですが、今ある機能をそのまま踏襲するという説明があったかと思いますが、少し気になったところが、談話室と託児施設というところですが、特に託児室のほうですが、この大きさは非常に狭いと思います。今はたくさん雪も降っておりますが、長岡には冬期間子供が遊べる施設として、市長はじめ市役所がぐんぐんやてくてくの子育て支援施設をいろいろなところにおいておりまして市民に好評で、特にお母さん方に好評でございます。子供も楽しいし、そこにお母さん方が来るといことで、お母さん方もその施設を楽しんでおられる施設がございます。そういう意味で言いますと今回新しいホールをつくりまして公民館をつくるわけですが、先ほど私は座席は小さいほうがいいという話もしましたが、ぜひともこの託児施設、保育機能までも含めてお母さん方からそこに行きたいといった機能を含めること

で、ホールであったり公民館をもっと身近に感じていただき、そのできた場所を活用していただけるのではないかなと思う一つの提案でございます。

もう一点談話スペースについてですが、こちらのコメントのところに学生が自由に簡単に休憩できるものとなっておりますが、150㎡は大体この大きさでして、大体ここが50坪位ですので、そう思いますとこの談話室の広さを託児室もこのくらいのスペースがあったらいいかなと思いますし、この談話スペースをうまく連携しながら、高校生たちが簡単に休憩できれば、またここに若い世代が集まることになる。そして自分達が大人になったときもこのホールを使い、公民館を使うといった良いスパイラルになれば嬉しく思います。今、踏襲するだけでなく将来の市民の皆さんにもたくさん使っていただけるような機能を付加していただけるといいのかなと思っています。

(赤羽委員長)

今、子育て世代を支援するオープンスペースの子育て広場みたいなものを考えたらいいいのかなという意見だったですね。そういう視点も大事かなと思います。

託児室というよりも、ここは雪国ですからもっと広いスペースをとったほうがいいのではないかということでしたね。

他にご意見ご質問はありますか。

(秋山副委員長)

今後、軽運動場と音楽室が相互に利用し合えるのかなと実は思っているのですが、厚生産業会館になった場合、14部屋で980㎡となっておりますが、この中には、軽運動場は含まれているのでしょうか。

(大塚公民館長)

含まれております。

(秋山副委員長)

ホールをつくと楽屋的なものや練習室が必要となってくると、公民館の防音装置がある音楽室と利用しあえるのか。フラットにすると軽運動場としてもホールとしても使えるのかと思ったもので、もう少し面積が縮められるのかなという素朴な質問ですが。

(赤羽委員長)

只今の秋山委員の意見ですが、公民館機能のなかのダンス、ヨガ、気功などの軽運動系あるいは音楽系の詩吟、合唱、民謡などもありますね。その小ホールといったようなその部分とホール機能のほうの練習室といいますか、リハーサルなどに使いそうなそういう小ホールを兼ね備えるというような共有空間が生まれるというのが合築のメリットということではないかと思いますが。その合築のメリットを活かしていくのではないのかなと私は思います。

(大塚公民館長)

貴重なご意見ありがとうございます。

それで今ほどのお話で、ホールの詳細はできておりませんが、当然ホールとなればリハ

一サル室のようなものができるのではないかなと思っております。それで私どもの音楽室は、現在先ほどの部屋の数のなかでは2つほど考えているところですが、今秋山委員からお話があったようにホールのほうのリハーサル室が、そういうものとの機能が遜色ないということになれば私どもも数的なものは当然調整の対象になると思いますし、それと軽運動室のほうですが、こちらのほうもかなり利用状況も多く、大きな運動室と小さな運動室の部分も考えてございます。大きさ的なものもございますので、あまりだだっ広いところで人間も少ないのにというわけにもいかないと思いますので、その辺のところはまた調整もしていかななくてはならないと考えていますので、貴重なご意見ありがとうございました。

(秋山副委員長)

ホールは先ほどの話でちょっと大きめになったので、できれば皆さんの利用者の意見にもありましたけれども、区切って利用できるというようなことも可能な椅子、なおかつ区切ってというようなことが可能であったらそういう利用もいいのかと思います。

(大塚公民館長)

今のご意見はまた検討させていただきますが、可動椅子で半分しまって残りの椅子は出しておいてということでしょうか。

(秋山副委員長)

真ん中にパーティションをしてふたつに区切ってという感じですが。屋台会館のような感じですが。

(大塚公民館長)

検討させていただきます。

(赤羽委員長)

他にご意見ご質問ございませんか。

(清水委員)

事例として公民館の託児室や談話室みたいなところがある長岡市を含めて見学をして参考にできればと思っていますが。

(赤羽委員長)

そのへんも、ホール機能と公民館機能の重なる共有スペースとして考えていったら良いのかなと思うのですが。

コンサートを聴きにくる奥様も子供をそちらに置いておけるとか、何かこうクロスオーバーしたようなものも考える必要があるのかなと思いますし、それが合築の最大のメリットだと思いますね。

(秋山副委員長)

保育に関してですが、市民プラザに子供センターがあって子供を連れて遊ぶ保育の施設があるので、公民館だったら講座や勉強したり音楽を聴いたりするときに預けられる場所

としての託児室なのか、そうではなくて連れて行って楽しむとでは全然違ってくる。市民プラザは預けて楽しむということはできない場所ですので、そこが検討するときの大事なポイントかなと思います。

(赤羽委員長)

託児的な要素が強いのかなというご意見ですね。

(大塚公民館長)

公民館として説明しました託児室というのは、秋山委員が言われたように公民館で事業を行った場合、子供を連れては講座には出られない方のスペースとして現在もございますし、これからも必要ではないかということでご提案させていただいているところでございます。よろしくお願ひします。

(赤羽委員長)

他にご意見ありますでしょうか。

この公民館の内容と規模につきまして部屋数、機能ですけれども高田地区にすでにある周辺施設ですが、先ほどパワーポイントでもありましたように、高田地区には雁木通りプラザですとか高田小町、ふれあい館、駅前にはコミュニティープラザもあります。そういったところの稼働状況、機能、そういったことも含めて今後調整を進めていきたいということによろしいでしょうか。高田の中にいくつか施設がありますので、それとは関係なく考えていくということでもあります。

今日は、事務局から議論のたたき台として現在の高田地区の公民館の機能を新しい施設に移したときの場合を想定して部屋の種類や数を示されたわけですが、次回の会議までに高田地区にある周辺施設の稼働状況を含めた形でその内容、規模の資料を次回また提示していただきたいと思ひます。

続きまして建設候補地であります。建設候補地の絞り込みを考えていただかなくてはならない段階です。これにつきまして事務局からの説明をお願いいたします。

(事務局 松井主任)

建設候補地でございます。

お配りをさせていただきました位置図をもとに、私どものほうで絞り込みの方法などにつきまして少し思いつくままにスクリーンのほうに映しださせていただければと思ひます。

確認をさせていただきます。1. 高田駅前 2. 西城町2丁目(附属小学校西側) 3. 高田公民館(現在の公民館の跡地でございます) 4. 高田公園プール跡地 5. ソフトボール球場 6. 教育センター 7. 旧厚生南会館跡地 ということでございます。高田駅前と西城2丁目、高田公民館、それから黄色の枠でくくらせてもらっておりますが、これはこのようなグループ分けもできるのかなということで地域で色分けをさせていただきました。絞り込み方法でございます。こちらにつきましては現在の事務局のほうで考えられる方法、案などを参考に少しお話をさせていただければと思ひます。

1つ目ですが、7つの候補地を同じフィルターにかけまして候補地を絞り込んでいくという方法です。具体的なイメージですが、7つを1つのフィルターに通して、例えば3候補地に絞り込むというやり方です。2つ目としまして各候補地をある要素でグループ化をし

ましてそのグループごとにチャンピオンを決めていくという方法でございます。7つの候補地をグループ1.2.3というような形で分けまして、そこの中の一番良いところを選んでいくということでございます。3つ目につきましては、ある要素でグループ化するというところまでは同じですが、そのグループそのものを候補地として選択していくというやり方でございます。4つ目ですが、各候補地にある点数をつけて点数の高い候補地を選択をしていくという4つの方法が考えられるのかなと思います。今回この絞り込みの方法につきましては、あくまで事務局の素案でございます。皆様方からさまざまなご意見をいただきまして今お話をさせていただいたフィルターあるいはグループの要素というところまでいろいろなご意見をいただければいいのかなと思います。

(赤羽委員長)

只今の説明につきまして何かご意見はありますでしょうか

(樋口委員)

公民館の利用者の声のところに、場所を選ぶのに交通の便の良いところがいい、バスや電車で来る人のことも考えてほしいという意見もありました。場所も選定するとき、よろしければバスのルートなども参考までにつけていただけたらすると、こうゆう市民の意見にも反映できるのかなと思います。

もうひとつ類似施設との競合ということで委員長のほうからも話がありましたが、やっぱり近くにある施設ですね、違う図面でかまわないのですが、類似施設を落としたものも我々に情報としていただければ嬉しく思います。意見です。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。

(事務局 松井主任)

只今の意見につきましては、資料ができ次第お示しさせていただきたいと思っております。

(赤羽委員長)

他に意見はありますでしょうか。

では、候補地の場所につきまして、絞り込みの方法ですね。当初10か所ありましたが、第1回目視察もしていただきましたが駅前の旧第四銀行跡地は規模が小さいとか、旧大和の跡地は次の土地利用が決まっているということでありまして3か所が除外された。結果的に7か所が残っております。この7か所をどのように絞り込むかという問題です。この絞り込み方法について、ご意見ありますでしょうか。

(秋山副委員長)

絞り込み方法について4つ提案いただいたのですが、私としてはいろいろな情報提供いただいたのと現地を見たのでざっくりばらんところで、感覚的には絞り込み方法4に近いのですが点数付けというところに行く前に、それぞれの委員の皆さんがどんな感触を持っていらっしゃるのか、私の中でも順位付けはあるのですけれども、違う方がどんなこだわりでどんなふうに思っているのか、ちょっとお聞きしたいなと思っております、こ

こに入る前にといいますか、もうこの作業なのかということがはっきりしないのですが、絞り込み方法の前段として意見交換をしたいというのが意見です。

(赤羽委員長)

絞り込み方法ですね、ご意見があればお願いします。一度に 1 か所決めていくのか、7 つの中から 1 つを選ぶのか、あるいは段階を追ってグループ化して選ぶのか、さらに、数量化して、評価点をつけて選ぶのか、フィルターもいくつかあると思います。バス通りに近いか、人口密集地、中心市街地から近いか遠いか、交通の便、駅前など場所。いくつかの評価点をつけて合算していくのか。ただ、数量化にも問題かがあると思いますが、例えば地域イメージというものが既にありますように、そのイメージ、地域のブランドみたいなものが数量化できるのかというものもあります。その辺についてご意見を頂ければと思います。

(阿部副課長)

せっかくの機会ですから視察も行っていただきましたので、一人ひとりの方から率直な感想を一言ずつでもいただければなあと思っていますのでよろしくお願いします。

(赤羽委員長)

個人的な意見、主観的な意見が出やすいですね。私としては段階を踏んで、客観的に決めていきたいと思うのですが、感想は感想で皆さんはお持ちかと思うのですが、いかがでしょうか。

(清水委員)

個人的な意見になってしまうのですが。

(赤羽委員長)

個人的な意見が全面に出てくると議論的に紛糾しかねない問題がありますね。大きく言えば市街地活性化といった目的とか、あるいはホール機能みたいな、もっと広域から文化的な地域、文化的拠点にふさわしい地点のほうがいいのではないのかや、街からの距離、それぞれの委員の方がどちらにウエイトを置くのかというのがあるので悩むところであります。まず、どこが良いのかという議論ではなく、選び方から入ろうと段階を踏んでいきたいと考える。7 か所から選ぶのか、段階を踏んで 3 つのグループから代表を出して 3 か所を絞り込んで、その上で数量化したりして比較していく、1 か所に絞り込む。どちらがよろしいかということです。

(秋山副委員長)

私が意見交換にこだわったというのは、ここに出ていらっしゃる委員さんはそれぞれ手を挙げたり選任されたり、選ばれた者として責任も持って出ていらっしゃると思うので、決して個人の情状的なところに流れたりするものとは思ってはおりません。私の経験の中で複数の中から 1 つに絞っていかなければならないという時は、意見交換をしている中で落ちていく候補というのが必ずあるので、選んでいくというよりも、皆さんがここは難しいのではないかなあと、候補から外れる場所が何か所か出てくるのではないかなあと、残

ってくる中でももう少し密度の濃い議論をしていけたら良いなという思いで提案させていただきました。

(赤羽委員長)

選ぶというよりも除外していくということですか。グループ化するということについてはいかがでしょうか。私としては一度に7つの中から選ぶというのではなく、やはり段階を踏んでいきたいと。高田地区の中で場所によって立地条件の違いがあると思うのです。立地条件の似たところをグループ化すれば3グループくらいになるかと思います。そのグループから代表を選んで最終的に3か所を比較する。そうすると段階を踏むことになりますね。

(秋山副委員長)

グループ化は趣旨がわからないのですが。

(赤羽委員長)

1つ目のグループは交通の結節点である駅前で特徴がある。次に高田の市街地に近い地域、街中、一步裏側の街になる。3つ目は歴史的な地区であるということになる。そういう形でグループ化できるのではということになる。城址地区、街の近く、街の一步後側の地区、そして駅前という形で、3つのグループの中ではほぼ同じような立地条件を持っているのではないのでしょうか。いかがでしょうか。

(渡邊委員)

グループ分けは置いておいて座席の問題で土地の広さが制限されたり駐車場の制限がされたり、路面バスや電車の交通の便が制限されたりあるので、フィルターにかけて、ここは交通の便が悪いか、そうすると脱落するところが出てくるのではないかと思います。いろんなフィルターにかけてふるい落としとして行って残ったところを決定するのかで検討していったほうがよいと思います。

(赤羽委員長)

最初からフィルターに掛けるのか、グループ化してグループの中にフィルターを掛けるのかということかと思えます。グループの中にフィルターを掛けるというのはいかがでしょう。

(田中弘邦委員)

そんな面倒くさいことをしたってしょうがないじゃないですか。フィルターをかけてやっつけばいろんな弱点が出る。市がそこはいいからもっと金を掛けるといえば別ですよ。道路をちゃんとしてそれに見合うようなものを作るというなら話は別ですけども、限られた中でものを考えていかなければならない訳でしょう。こっちでいろいろ提案したらやれるのですか。そこのあたりをはっきりして下さい。無駄な議論をしたってしょうがない。現実的な議論をやっつけかないと。

(赤羽委員長)

田中委員としてはどうですか。

(田中弘邦委員)

最初から全部フィルターに掛けて議論して同時にしていったほうが良い。ややこしいことをしないでいいと思う。

(清水委員)

候補地が7つある。時間的なものを含めて、例えば項目を100項目くらい選んで、総合評価点方式みたいなもので一番いいものを選んでいったほうが時間的にはかからないのかなと思います。

(赤羽委員長)

点数化の方法も一つですけども7つを全部点数化していくというのは時間的に手間がかかりますよね。従って2つ、3つに絞ってから点数化する、そのほうがいいと思います。私としては、一度にフィルターに掛けるよりは、3つのグループに絞ってそのグループの中にフィルターを掛ければ3か所だけ取り出せるわけです。そのほうが私は効率的だなと思います。

(渡邊委員)

最初に樋口委員が言ったバス停とか全部落としていくと確実に落ちていく場所があるのです。類似施設が近くにありすぎるといったなど。それをやってから評価点をつけるといったほうが良いと思います。

(赤羽委員長)

前後の問題だと思います。どっちみちフィルターには掛けるのですけれども。

(清水委員)

今の時点でグループ化できているのではないですか。

(赤羽委員長)

3グループについてはいかがでしょうか。これでよろしいでしょうか。

(各委員)

よいと思う。

(赤羽委員長)

グループの中にフィルターに掛けるということで、バス停からの距離、道路も幹線道路なのか細い枝道なのか、現在の土地利用で木が茂っているとか、そういう自然的な問題もありますね。あるいは駅前のような交通の結節点ですね。そういう問題もあります。私の考えるような方向でよろしいでしょうか。3グループにフィルターに掛けるということでご意見を伺いたいと思いますが、1のグループは1つしかないということでこれはいいですね。青い2、3のグループについてはいかがでしょうか。ご意見をお願いします。高田公

民館の場所と、西城 2 丁目であり附属小学校の西側であります。みなさん見学しましたのでイメージがあると思います。

(甲田委員)

高田公民館については行く道中で見ていたときに、500 人規模の人が出入りするときに、行く道中の通りが狭いというのがすごく気になったかなというのがあります。

(赤羽委員長)

アプローチ道路が狭すぎるということですね。あの道路の拡幅計画はないですね。

(事務局 奥田課長)

ございません。

(赤羽委員長)

大手町のあそこの通りにバスは通っているのですね。バス停からは 500m くらいは歩くのでしょうか。

(事務局 奥田課長)

バス停の関係ですが、図面に落としたものはないのですが、第 1 回の検討委員会の資料で資料 8 ページになりますが、私ども 10 か所から 7 か所絞り込んだ段階でその 7 か所につきまして候補地の現状とメリット、デメリットを一通り表で整理してございます。

その中でも最寄りのバス停からの距離を拾ってございます。候補地の現状の欄に最寄りのバス停からの距離を表示してございます。それとメリットデメリットの付近には付近の道路の広さ、混雑具合、冬場の利用具合等予想される道路状況を書いてございます。8 ページになりますが、表の 3 絞り込み結果、建設候補地案とした候補地の候補の現状、メリットデメリットとした表がございます。細かく書いてございますが、そこをできましたら今、参考にご覧いただきながら、今行っていたいでいる議論をしていただけると参考になるかと思しますのでよろしくお願いいたします。

(赤羽委員長)

他にご意見ありますでしょうか。

この 2 か所の比較です。3 地点についてはアプローチ道路が狭いということです。ただ面積的に幼稚園の移転とかごみステーションのところまで考えればある程度面積がとれるところですね。

それに対して西城のほうは、面積的に限界があるのかなと思います。あそこで作れば公民館機能、ホール機能は、1 階 2 階のような形になってしまうのではないのかなと思ったりしたのです。ですから分棟型は難しくなってきましたかね。

この 2 か所の比較について何かありますでしょうか。熊田委員いかがでしょうか。

(熊田委員)

ブルーの 2 番と 3 番の 3 番は先ほどおっしゃった通りで大手町からのアプローチがあのでございまして、非常に入ってくる便も悪い。2 番に関しましてはまったくもって面

積が狭く、幹線道路の角地でございますので、駐車の際に便利そうで非常に不便だという気がします。非常に2、3というのは用途としては、ちょっときついなという感じですが、あえてつけるのでしたら個人的には3番ではないかなと思います。

(赤羽委員長)

渡邊委員いかがでしょうか。

(渡邊委員)

前回秋山委員が言ったようにニーズがあるのだったら3番がいいと思い、今公民館を利用している人のことを考えれば、良いのかなと思います。2番は確かに交差点があり、排雪をしていないと1車線にもなったりして、ましてやお客さんも来ていけば交通の便は悪いのではないかと思います。

(赤羽委員長)

甲田委員、2番と3番の比較はいかがでしょうか。

(甲田委員)

先ほども意見させてもらいましたが、3番のほうはアプローチ的に道路が狭いというお話をさせていただきましたが、今、言ったように交差点真ん中にあるというのも今、熊田委員が言われた通り、いいようで悪いということもありますし、どちらかを取るとなると高田公民館を今利用されている方のことを考えれば、どちらかと言えば3番のほうがいいと思います。

(赤羽委員長)

佐藤委員いかがでしょうか

(佐藤委員)

どちらもちょっと難しいところですね。どちらかとなると3番ですね。

(赤羽委員長)

田中委員、2と3の比較はいかがでしょうか。

(田中弘邦委員)

あまり意味がないと思いますね。二つともダメだということを言いたいですが。

(赤羽委員長)

2については、旧高田師範の公地ですよね。ですから高田の歴史を示す場所でありますし、またあの当時からの樹木がいくつか残っていますね。それが街なかに対して非常に大事な緑を与えていると私は思っています。ゲートボールなどしていますが、その程度で街なかの緑として駅前通りに面していますが、そうゆうところに緑があることは非常に大事ではないかなと思います。個人的に思いますが。

(秋山副委員長)

私も2と3は難しいかなと思っています。今の利用者のことを考えると3は離れがたいのですが、あそこの入り口のところで時折事故の現状あるのをみるとちょっとそこにたくさん車の出入りがありますということになると、難しいかなと思っていて、先ほどグループ分けでこだわっていたのは2、3は厳しく、逆に黄色のところでは二つの候補地のほうが実はいいのかなと思ったもので。

(赤羽委員長)

どちらかというところ3番で逆に黄色の部分がいいのかなと思ったということですね。では、続きまして黄色のグループ、高田公園城址地区であります。ここは4か所ありますが、これについてご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

(清水委員)

教育センターとありますが、もし落とすとなるとここなのではないかと思っています。立地を含めてベストは、個人的意見もありますがソフトボール球場がいい位置なのかなと思います。ランドマーク的にもなるし、駐車場も広く取れるし、敷地も広いし。ソフトボール協会の聖地みたいなところですが、悪いですが、あそこは全部駐車場として観桜会の駐車場にも使えるメリットもある。そういう意味では教育センターを解体して位置的なところは交差点の中心でもあるし、このへんのところを一つずつ落としていくとなると、ここになるのかなという気がします。

(赤羽委員長)

7と比較はいかがですか。

(清水委員)

厚生南会館は、この4つの施設全体が高田公園の歴史的な施設の中で、旧厚生会館という意味でのネームブランドは通っているし、建物を作るとしても位置的にはいいでしょうけど敷地面積も5900㎡で一番狭いですし、建設的には無理かなという気がします。

(赤羽委員長)

ありがとうございます。少し面積が狭いということですね。他にはご意見いかがでしょうか。

(渡邊委員)

私も清水委員と同じ場所でいいのかなと思います。ここだと隣に図書館があるので公民館の機能として教育ということと連動できるのかなと思います。私個人でオクトーバーフェスタに来た時に中まで入るとバス停が非常に遠いです。バスが来ているのかもわからないので、子供を抱えているとあの通りまで出ていくのに、公共交通機関が非常に遠く感じたので中に入るより幹線道路沿いにあったほうがありがたいのかなと思います。

(赤羽委員長)

バス通りというのは、牧村線ですよ。

(渡邊委員)

そうですね。

(赤羽委員長)

他にありますでしょうか。大事なところであります。

(秋山副委員長)

私も黄色のところでは、誰が考えてもソフトボール球場が一番いいのかなと思います。ただひとつ気になるのは、どこもそうですが、歴史的文化的地域なのでここにハードなものをつくった時に、将来的にいいものかどうなのかということが気にかかっております。

(赤羽委員長)

文化財委員会でも議論されているようですが、ここは県指定の施設地区に指定されていて、その関係の規制は受けるということですね。ですからどうでしょう、建物建てる時には、前に発掘が必要なのではないでしょうかね。そのことも考えていかなければならないわけですね。もうひとつは、上越市も景観条例をもっていますね。この歴史的地区ですのでそれにマッチした景観、建物の高さや形も規制されてくると思いますが、歴史的な景観を壊さないようなスタイルですね。かつて言われたように、かつての旧厚生南会館は三角形の大屋根で高田公園の歴史地区の景観を台無しにしていたということをよく聞いたのですが、ああいったものはもうつくれないということですね。その点も考えた上で歴史的なシンボリックな中心ではありますね。

(田中弘邦委員)

4つの中で考えられるのは、高田公園プールの4番目とソフトボールのこのふたつですね。その中でいろいろ検討すればおのずと答えが出てくるのかなというところかなと思っています。

(熊田委員)

田中委員がおっしゃった通りで私も黄色の中から二つ抽出するならば4.5とと思っています。5番は今、第1回目の視察でいただいた図面を見るとソフトボール球場は2面とれますが、1面は球場と残して、1面は通りに向けて使うというような想定でおられるのですが、これまた議論をしていった話ですが、全面使って構築されるのかというのも個人的には気になるところでございますし、高田公園に建てる意義としまして、やはり公民館というのは上越市中心の生涯学習のある意味シンボルだと思いますので、それで文化地域というのは文教地域である高田公園にあるのは皆さんから賛同が得られるのではないかなあと思います。

(赤羽委員長)

佐藤委員はいかがでしょうか。

(佐藤委員)

私もこの中だと 4、5 番がいいのではないかなと思います。

(赤羽委員長)

甲田委員はいかがでしょうか。

(甲田委員)

私もみなさんの意見を聞いて、この中で二つとなれば 4.5 番が一番広さ的な問題と色々な交通的な問題では、一番いいのではないかなと思います。

(赤羽委員長)

最後に樋口委員はいかがでしょうか。

(樋口委員)

先ほどの 3 つのグループの中ですと、5 番ソフトボール球場かなと思っています。先ほどみなさん 2 つ目のグループで、2 も 3 もだめだとおっしゃったのですが、3 番はダメかなというのは最初の甲田委員の意見と一緒にですが、実は私は 2 番は南側の交差点を処理すれば大きな交差点から入らずに入ってくることは可能で、私はあの樹木を残してもなんかこう立地できるのではないかと思ひ、また類似施設とか直江津の方とか広域にみたときにこの場所は結構重要な場所かなと思っております、3 つのグループからそれぞれ 1 個といわれると 1、2、5 番の 3 つを残しておきながら先ほど委員長がおっしゃった、どれがどうなのかという意見を集約されればなと思ひました。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。

考える物差し基準というのは、高田の街、特に人口が集まっている高田の市街地、そこに近づけば市街地活性化へのプラスの影響があると思ひますね。離ればプラスの影響がなくなってきます。もうひとつは、それは結局は公民館機能中心とした捉え方で、公民館機能中心とすれば街に近いほうがいいのかなと思ひますね。ところがホール機能を中心として考えたらホール機能はもっと広域的な人を集めますから、上越一円から集めるようなコンサート、演劇、シンポジウムなども開かれるということであれば、やはり歴史的にシンボリックな伝統ある高田公園の地区がいいのかなと思ひます。ですから、公民館機能を中心にするのかホール機能を中心にするのか、それによって今、綱引きと言ひますか、どちらかに引っ張られるかという関係だと思ひます。広い高田公園ですが、6 番は街からちょっと離れすぎていると思ひますね。4 番は、回らなければいけないですね。7 と 5 番が残りますが、7 番は面積的に限界がありますか。それと高田公園の本丸の土塁が外堀のほうから見えなくなってしまうということがありますね。5 番は街から遠くなるというマイナス面がありますね。そのへんの相互関係だと思ひますね。しかし委員の皆さんの意見を伺えば 4 と 5 の特に 5 番がよろしいのではないかということですね。そう言われたら確かにそうかなと思ひますね。これについてさらにご意見あれば願ひします。

(秋山副委員長)

樋口委員の意見を聞いて、2 番の西城、現状のイメージで難しいかなという先入観から

入ってしまったのですが、道路の拡幅に関して3番の高田公民館より可能性はあるのかなと。立地条件としてそこに建設可能であればとてもいいなと思います。先ほどは自分でそこは無しとしましたが、復活しようかなと思いました。

(赤羽委員長)

しかしここは面積的にどうでしょうか。狭い印象があったのですが。

(清水委員)

7100㎡ですね。

(秋山副委員長)

上教大から譲っていただけないでしょうかね。

(赤羽委員長)

ここは上教大の土地ですか、市の土地ですか。隣接している土地ですね。

交通位置としては、2番が優れていますが。面積的には公民館機能中心と考えれば3番のほうがいいのかないかなという印象ですが。ということで、1と5番が残りましたね。真ん中のブルーの二つの地区ですね。ここについては、全体としては、3番の意見が強かったと思うのですが。とすれば3つのグループから1.3.5番が残って比較検討ということになりますが。そのような形でよろしいでしょうか。

(佐藤委員)

3は残さなければいけないところですか。

(赤羽委員長)

3か所を数値化して検討し、一応段階を踏んだという形を取りたいのです。1番についての議論は何ってないですが、時間になりましたね。1も特徴的な場所ですね。メリットは交通の便が良く鉄道もバスも使える。ただ交通の便は良いといってもそこは突き当たりの場所ですね。駅裏まで通り抜けるという交通ルートではないですね。コンサートなどに対する鉄道の振動等もありますね。ホール機能ではマイナス面がありますが、公民館機能としてはまあいいのかなということですね。交通の問題がちょっとありまして袋小路だということ。というようなことがあります。今日ほぼその3グループに分けて比較検討すると3か所に絞られたということでもよろしいでしょうか。

それでは、時間もありまして飲食、一時預かり機能も議論したかったところですが、それについてはもう時間がありません。最後に今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いします。

(事務局 奥田課長)

では、今後のスケジュールについてご説明いたします。スケジュールの資料のほうをご覧くださいと思います。

資料5になります。前回もお話させていただきましたが、当初3月までの中で案をまとめていただくということをお願いしてきていたところですが、議論を活発にして

いただいてもう少し時間をかけた議論が必要だろうというふうに感じております。そういったことから基本構想案のとりまとめを6月までの中でお願いしたいというふうに考えております。以上でございます。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。ここのスケジュールについて何かありますでしょうか。確認ですが、6月より更に延びるということもあり得るのでしょうか。

(事務局 奥田課長)

できるだけ6月をお願いしたいと思っておりますが、やはり今の議論の様子等を窺っていますと時間がかかる部分もあるかもしれませんが、今後の議論の状況をみながら相談させていただきたいと思っておりますが、今のところ私どもは6月をお願いしたいと思っております。

(赤羽委員長)

それでは、事務局の案の通り進めることにしたいと思います。

続きまして、その他につきまして事務局から何かありますでしょうか。

(事務局 奥田課長)

その他になりますが、今ほどの議論の中でもありましたが、市内類似施設の視察につきましては視察をしていただき参考にさせていただければと思いますので、2月下旬から3月上旬くらいの中で出来るだけ早く計画したいと思っております。また次回会議の開催につきましては、議会の日程もありますが3月うちの中で予定させていただきたいと思っております。3月の会議では席数や土間のホールの広さ、この辺を再度議論させていただきたいと思っております。詳しい日程については事務局のほうで連絡させていただき調整させていただきたいと思っております。

(赤羽委員長)

今のことにつきましてご意見ご要望はありますでしょうか。

(秋山副委員長)

今日場所が絞られて、それに対しての細かなデータが提示されてくると思うのですが、そういう項目というのは事前に知ることはできませんでしょうか。

(阿部副課長)

第1回目の時に候補地のいろいろなデータをお示ししたかと思っておりますので、それに加えて例えばこんな情報が欲しいとかあれば、言っていただければこちらのほうで準備をしたいと思っております。メールでもファックスでも何でも結構ですのでよろしくお願いいたします。

(赤羽委員長)

他にご意見等ありますでしょうか。

(甲田委員)

視察のほうで、2月下旬から3月の初めということでしたが、2月の下旬となるとあと1週間後位になりますが、仕事の関係もありますので、できるだけ早くお知らせ願いたいと思います。

(事務局 奥田課長)

取り急ぎ予定をお知らせしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
先ほど、3か所の場所に絞り込まれたところがありますが、その場所についても第1回の資料にもありましたが、バス停の距離等のデータもありますが、その辺また整理して次回の委員会の中でお示しできるようにしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(赤羽委員長)

それでは、以上をもちまして本日の議事は全て終了いたしました。どうもありがとうございました。更に事務局のほうで何かありましたらお願いいたします。

(事務局 奥田課長)

長時間に渡る議論をありがとうございました。

今後の日程につきましては大至急調整させていただきましてご連絡させていただきたいと思っております。本日の会議録の確定版につきましては、ホームページのほうで公表させていただきますし、次回の会議の際にお渡ししたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして第3回上越市(仮称)厚生産業会館整備検討委員会を終了いたします。長時間のご審議誠にありがとうございました。

8 問合せ先

都市整備部都市整備課公園管理係

TEL : 025-526-5111 (内線 1882)

E-mail : toshiseibi@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。